

自治連だより

～昭島市自治会連合会～



◇第3号◇発行：2012年3月

■□2/11防災リーダー研修会を開催□講 師：山村 武彦氏□■■

2月11日(土)午前中、昭島市民会館にて自治連主催の「防災リーダー講演会」を実施しました。講師に「近助の精神・防災隣組」の提唱者の山村武彦氏(防災システム研究所所長)。テーマは『自主防災組織はイザの時の為に、平常時に何をすべきか』サブタイトルは～『近助の精神』が、地域の絆のキーワード～で、北川市長、副市長、教育委員会や自治会役員、マンション管理組合役員、市老連等の各種団体の皆さんも参加いただきました。この事業は東京都の地域の底力再生事業としての開催です。北川市長、小野自治連の会長の挨拶で始まりました。

山村武彦氏からは、①東日本大震災の教訓を踏まえた防災・危機管理／7つのポイント、②逃げ遅れないための認知心理バイアス、③自分と家族を守る平時の心構え、④「自主防災組織」と「近助の精神」が地域の絆でした。最後に、4項目にわたってアドバイスを頂戴しました。



【主な内容】 ●災害想定等にとらわれない。対策・行動の優先順位は取り返しのつかない「命」と「時間」です。対策をやっておくタイミングを失くしたら、取り戻しがつかなくなる。あ～あの時やっておけば良かったとなります。 ●家庭、地域、行政の役割責任分担が大事です。非常食は家庭で備蓄すべきと思います。 ●行政しかできないところを行政がやる。すべてを行政がやる時代ではない。 ●正常だと思ったり、まだ自分は大丈夫だろうと、いう心理ではなく「危機管理対応力」をもち、家庭の防災会議開いたり、訓練に参加するのは義務です。 ●防災訓練やっても、出てくる人はほとんど同じ人ではなく「必ず一軒一人は参加してください」「同じ時代、地域やマンションに住んでいる運命共同体ですよ」という認識をみんなに徹底する必要がある。 ●そういう訓練や考え方や、近助の精神が大事。『防災隣組』とは、むこう3軒両隣で、マンションなら階毎に安否確認チームを作って、普段はそんなにベタベタした付き合いでなく、災害時だけは声かけ合えるルールを作ることです。 ●住民は助けられる人、行政が助ける人、そんな立ち位置を勝手に決めていましたけど、自分や家族の命は自分たちで守ることです。 ●元気なうちは助ける人に、高齢になって体が不自由になって、いずれ助けられる人になる。誰でもが元気なうちは助ける人に、立ち位置を変えることです。 ●揺れを感じたら、直ちに安全ゾーン(転倒落下物の少ない閉じ込められない場所)に移動することが大事です。 ●火が出たときの優先行動は、知らせる→消す→助ける→逃げる！です。講師から最後に『昭島市は地域としてもまとまり易い環境にあるので、防災隣組の推進と共に防災のモデル地域に！』との要望がありました。

＜※詳細は、昭島市自治会連合会ホームページの2/11付けの研修会記事を参照ください＞

(アドレスは、右下に記載在り、又は検索で“昭島市自治会連合会”)

◆◇ 2012年4月～11月までの主な行事予定 ◇◆

- 4/8 多摩川一斎清掃 ●5/25 自治連総会 ●5/27 郷土芸能まつり
- 5/30 昭島チャレンジデー2012 ●5/27～6/3 市内クリーン運動
- 8/4.5 昭島市民くじらまつり ●8/26 昭島市総合訓練
- 11/10.11 産業まつり ●11/25 青少年フェスティバル



★裏面に続く！

■発行・編集

昭島市自治会連合会 TEL:544-5111

■自治会連合会のホームページ

<http://www.akishima-jichiren.jp/>

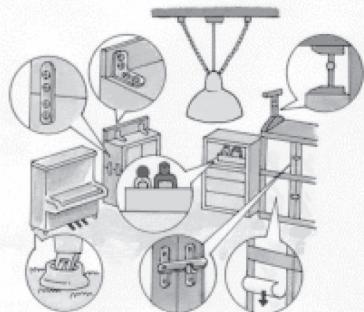
家具類の転倒・落下防止方法

【転倒・落下防止のポイント】

- 転倒防止金具などで固定し、倒れにくくしておく。
- 食器戸棚、窓などのガラスが飛散しないようにしておく。
- 本棚や茶ダンスは、重い物を下の方に収納し重心を低くする。
- 棚やタンスなどの高いところに危険な物を載せて置かない。
- 食器棚などに収納されているピン類など) が転倒したり、すべり出さないようにしておく。



【具体的な固定方法】



- 二段重ねの家具類は、上下を平型金具などで固定する
- 柱や壁体に固定する場合は、L型金具とモクネジで家具の上部を固定する
- ガラスには、ガラス飛散防止フィルムを張る。
- 吊り戸棚などの開き扉…掛金などにより扉が開かないようにする。
- 食器棚のガラス製品（ピン類など）が、転倒したりすべり出さないよう防止枠を設ける。

非常用品として備えておくもの

【非常持出品】

両手が使えるリュックサックなどに、避難の時必要なものをまとめて、目のつきやすい所に置いておく。

飲料水・携帯ラジオ・衣類・履物・食料品・マッチやライター・貴重品・懐中電灯・救急セット・筆記用具・雨具（防寒）・チリ紙など生活に欠かせない用品です。



【非常備蓄品】

地震後の生活を支えるもの、一人3日分程度（食料品等）



- 停電に備えて………懐中電灯・倒れにくいローソク
- ガス停止に備えて…簡易ガスこんろ・固形燃料
- 断水に備えて………飲料水（ポリ容器など）

※1人1日3L目安

【防災準備品】

地震直後の火災や家屋倒壊に備えるもの

- 火災に備えて………消火器・三角消火バケツ・風呂の水の汲み置きなど。
- 避難・救出に備えて…おの・ハンマー・スコップ・大バーチ・防水シート・のこぎりなど。

